

平成26年度入学試験問題（後期日程）

小 論 文

教育学部 生涯教育課程 心理臨床科学コース

注 意 事 項

1. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
2. 解答は、必ず解答用紙に記入すること。
3. 解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
4. 解答時間は、120分である。
5. 横書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

問 題

我が国では、平成 25 年にいじめ防止対策推進法が成立し、施行された。図 1～5 は、「児童生徒の問題等生徒指導上の諸問題に関する調査」(2012 年 9 月, 2013 年 3 月, 文部科学省)から、小学校, 中学校, 高等学校におけるいじめ(※1)に関する回答を抜粋したものである。これらの図に関して、以下の各問いに答えなさい。

問 1 図 1 は小学校, 中学校, 高等学校におけるいじめの認知件数, 図 2 は学年別の認知件数(※2)である。図 3 はいじめの様態(種類)である。
図 1～3 の調査結果から読み取れる近年のいじめの特徴について 800 字以上, 1000 字以内で述べなさい。

問 2 図 4 はいじめ発見のきっかけ, 図 5 はいじめられた児童生徒の相談状況である。
いじめを早期に発見するために, 学校側が取り組むべき課題があるとすればどのようなものが考えられるか, 問 1 での回答および図 4, 5 の調査結果を踏まえて 800 字以上, 1000 字以内で述べなさい。

※1 いじめとは, 上記の児童生徒の問題等生徒指導上の諸問題に関する調査より「当該児童生徒が, 一定の人間関係のある者から, 心理的, 物理的な攻撃をうけたことにより, 精神的な苦痛を感じているもの」と定義する。

※2 いじめ認知件数とは, ※1 で述べたいじめの定義にあてはまる件数である。



図1 いじめの認知件数の推移

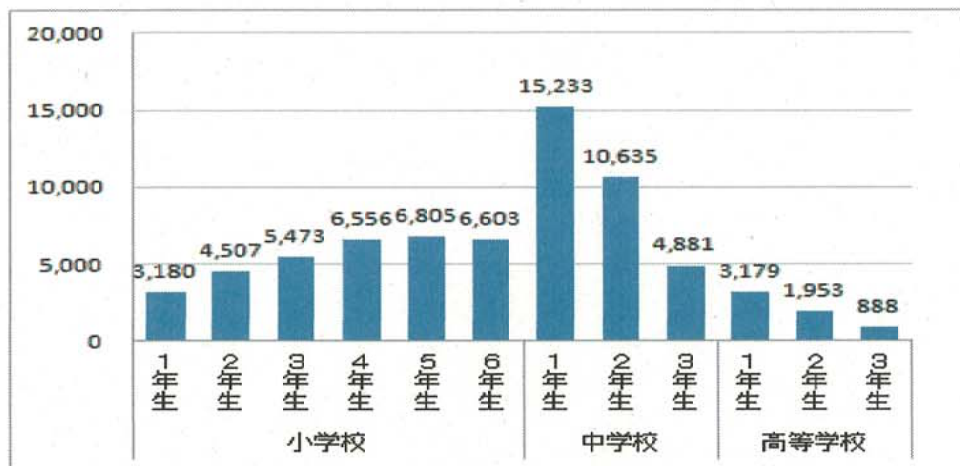


図2 学年別いじめの認知件数

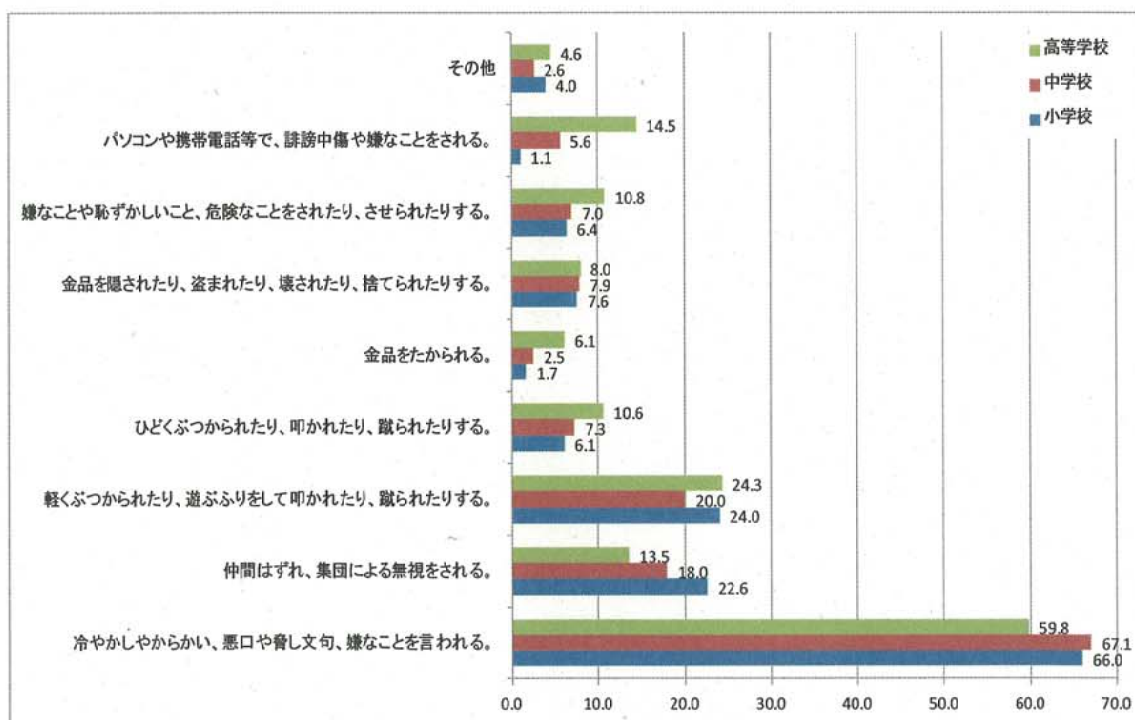


図3 いじめの様態（種類）

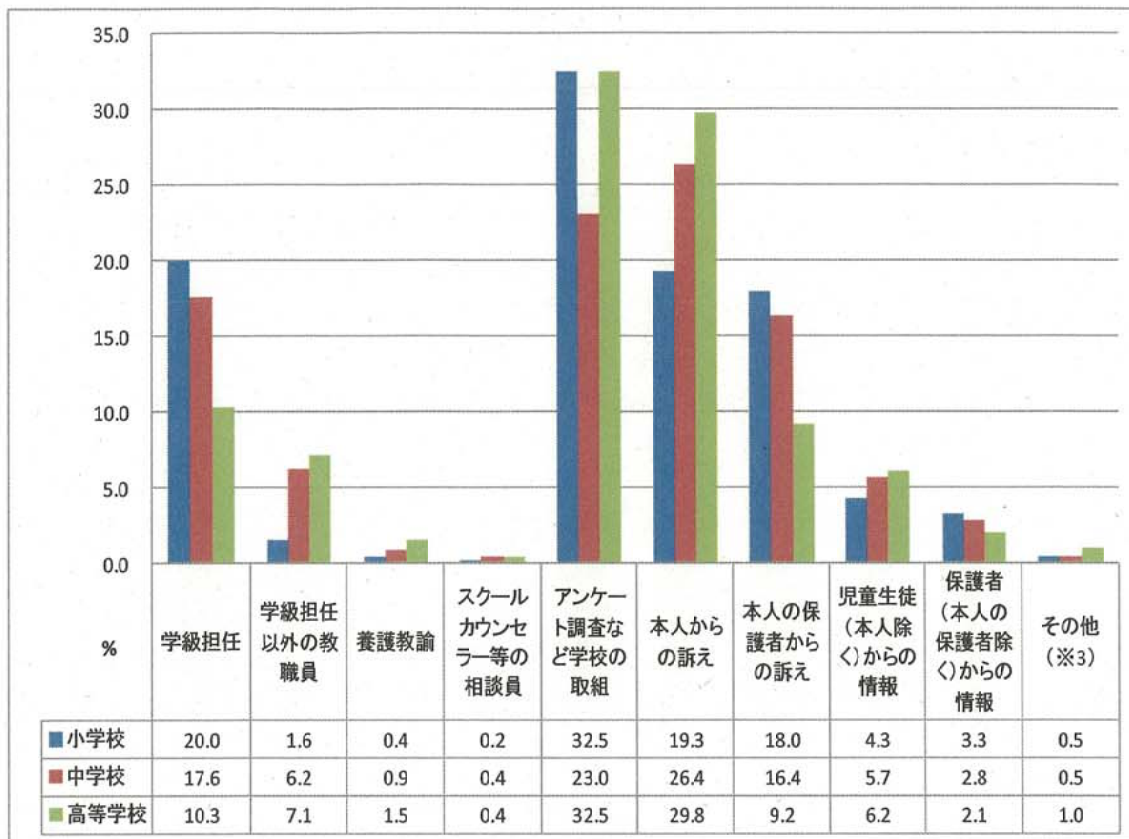


図4 いじめ発見のきっかけ

※3 地域の住民，学校以外の関係機関（相談機関等含む），匿名による情報など

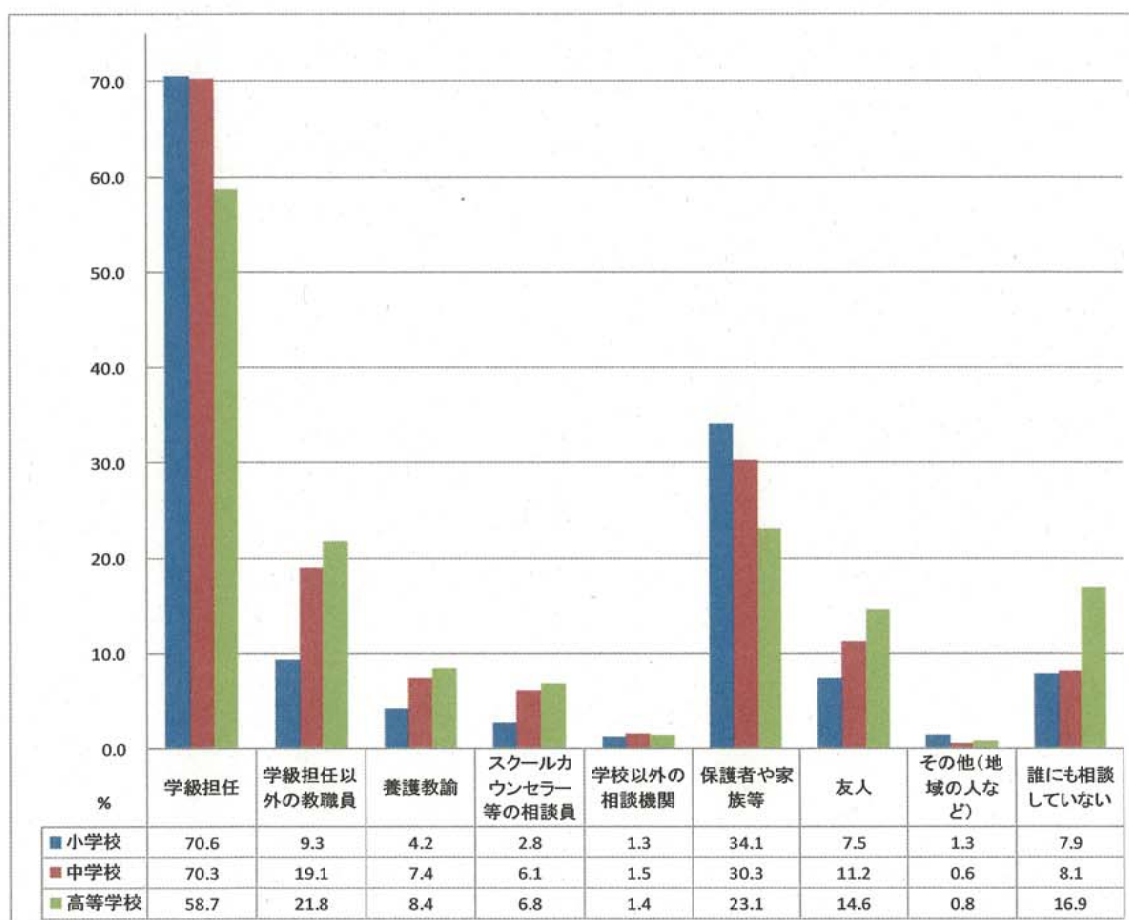


図5 いじめられた児童生徒の相談状況

平成26年度入学試験問題（後期日程）

小 論 文

教育学部 生涯教育課程 心理臨床科学コース

出題の意図

記憶に新しい大津市の中学校でおきたいじめ等を背景に、平成25年6月に、いじめ防止対策推進法が成立し、その基本理念には「児童等はいじめを行ってはならない」と明示された。さらに、いじめ防止対策推進法では、いじめ対策への調査・研究が推進されており、科学的なデータに基づいた検証及び効果的な対応を提唱することは急務である。

以上のように、いじめの本質的理解およびその対策について考えることは、本コースの教育目標である人間理解に即した重要なテーマと考えられる。

今回の問題では、受験生が近年の小学校・中学校・高等学校におけるいじめの件数およびその対策の推移から、いじめの実態およびその実態に基づいた対応及び防止策の特徴について、どのように考察できるかを問う。さらに、本コースではグラフや表などの客観的なデータから問題の本質を読み取る能力を重視している。具体的には、以下の3点について問う。

1. 小学校、中学校、高等学校のいじめの特徴およびその対応及び防止策について、客観的な洞察力を問う。
2. 調査結果から関連性を見いだす統合力を問う。
3. いじめの特徴およびその防止策を踏まえた上で、いじめの対応および防止策について論理的かつ独創的な思考力を問う。